

北方建築総合研究所 NEWS LETTER

北方かわらばん

Mail Magazine VOL. 28 2011/12/07

「北方かわらばん」は、地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所（旧・北海道立北方建築総合研究所）が発行しているメールマガジンです。

ホームページ等で配信登録された方にお送りしています。

アドレスを登録した覚えのない方、登録内容の変更、配信停止は【管理者からのお知らせ】をご覧ください。このメールアドレスは配信専用のため、返信できませんのでご了承ください。

※MSゴシックなどの等幅フォントでご覧ください。

=====  
今月号のトピックス  
=====

第28号の内容はこちらです。

■イベントのお知らせ

- 「地震防災セミナー」を中標津町と釧路市で開催します
- 防災ワンデー「釧路防災講演会2012～来るべき大津波に備えて～」を釧路市で開催します
- 「くしろ安心住まいフェア2011」を開催します
- 「住宅技術セミナー」を開催します
- 「2012木製サッシフォーラム」を開催します

■特集 「中古住宅の可能性」

■研究紹介 「低炭素な住まい・まちづくりのためのCO2排出量削減施策に関する研究」

■最近の研究所の動き

- 前田国土交通大臣が来庁されました

- 「建築住宅行政における地域課題検討会議」を開催しました
- 住居領域学習研修会を開催しました
- 博士号を取得した研究者と論文の紹介
- 論文発表と学会発表
- 11月の業務報告

■北総研からのお知らせ

- 構造計算適合性判定センターから

■年末・年始のお知らせ

=====  
イベントのお知らせ  
=====

■【「地震防災セミナー」を中標津町と釧路市で開催します】

(1) 中標津町

- 日 時 平成23年12月8日(木) 13:30~17:00
- 場 所 中標津町総合文化会館「しるべつと」1階コミュニティホール  
(中標津町東2条南3丁目1番地1)
- 連絡先 中標津町役場建設水道部建設課建築指導係
- 電 話 0153-73-3111 (内戦354)
- ファックス 0153-73-5333

(2) 釧路市

- 日 時 平成23年12月9日(金) 13:30~17:00
- 場 所 釧路市消防本部3階体育館  
(釧路市南浜町4番8号)
- 連絡先 釧路市都市整備部建築指導課指導防災担当
- 電 話 0154-31-4569
- ファックス 0154-22-4971

北海道建設部住宅局建築指導課と中標津町、釧路市が主催する本セミナーでは、人と防災未来センターの語り部である谷川三郎(元芦屋市役所)さんから、阪神・淡路大震災の経験と市民及び行政マンとして、2つの目線から地震に備えた暮らしのポイントを伺うとともに、北海道大学の岡田成幸教授から、東日本大震災の教訓と家庭でできる防災対策、住宅の耐震化のお話や、発生が懸念される道東巨大地震のお話をいただきます。

また、クロストークセッションでは、地震と共に暮らすための知恵について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。皆様の参加をお待ちしています。

(性能評価課 南)

■【防災ワンデー「釧路防災講演会2012～来るべき大津波に備えて～」を釧路市で開催します】

日 時 平成24年1月15日(日) 13:30～15:30  
場 所 釧路市立図書館4階視聴覚ホール(釧路市幣舞町4-6)  
連 絡 先 釧路市消防本部予防課  
電 話 0154-23-0426  
ファックス 0154-23-0466

地震の多発地帯である釧路市において、大地震や大津波が発生した時、被害を最小限に食い止めるには、自助・共助・公助が一体となりの確に対処することが大切であり、災害から身を守るためには、平常時からの防災対策や備えが重要です。

この講演会では、防災意識の高揚を図り安全で安心なまちづくりを目指すことを目的としています。皆様の参加をお待ちしています。

(性能評価課 南)

■【「くしろ安心住まいフェア2011」を開催します】

日 時 平成23年12月10日(土) 10:00～16:00  
場 所 釧路市こども遊学館(釧路市幸町10丁目2番地)

釧路総合振興局が主催する「くしろ安心住まいフェア2011」に共催します。次世代を担う子どもたちに、体験型のイベントを通して楽しく安心住まいについて学ぶことができますので、たくさんの皆さまのご参加をお待ちしております。

詳しい内容はこちらをご覧ください。

<http://www.kushiro.pref.hokkaido.lg.jp/kk/kkk/ksd/anshinsumai fea2011.htm>

(企画課 神田)

■【「住宅技術セミナー」を開催します】

日 時 平成23年12月12日(月) 15:30～17:00  
場 所 札幌第一ホテル(札幌市中央区南7条西1丁目12-7)

当セミナーでは、木構造の設計手法について、接合部の具体的な設計事例を示しわかりやすく解説します。

また、優良住宅取得支援制度「フラット35S」の制度拡充がありましたのでその概要についても説明します。

当日は最新の情報を提供しますので、多数の建築関連事業者・技術者のご参加をお待ちしております。

詳しい内容やお申し込み方法はホームページをご覧ください。

<http://www.nrb.hro.or.jp/>

(企画課 神田)

■「2012木製サッシフォーラム」を開催します

日 時 平成24年2月10日(金) 13:00~16:30  
場 所 大雪クリスタルホール国際会議場(旭川市神楽3条7丁目)

道総研森林研究本部林産試験場、北海道木製窓協会と共催で2012木製サッシフォーラムを開催します。

今回テーマは「まど・空間・そとをつなぐ」です。

戸外と室内をつなぐ窓や空間の機能、そこへの木材利用などについて建築に携わる様々な立場の方からの提言とともに、参加された皆様と一緒に意見交換を行ってまいりたいと考えております。

詳しい内容については、今後ホームページでご案内いたします。

(企画課 伊藤)

=====  
特集 「中古住宅の可能性」  
=====

近年、特に若い世代の中に、一生賃貸でも良いという人が増えているように感じます。家を持つというリスクを負いたくないために、その時々生活に合わせて賃貸を住み替えて生きていく人たちです。同様に、中古住宅でも良いという人も増えているように感じます。新築は高すぎるので、中古を買ってリノベーションして暮らします。新築に比べると間取りの制限などがありますが、きちんと改修すれば快適に過ごせます。

私どもでは、ライフステージにあった住まいへ住み替えを促進する仕組みについて検討しています。高齢になり施設やまちなかに移った人の中には、元の住

宅をそのまま空き家にしている人がいます。一方、前述のように戸建て賃貸の需要は意外と多いことがわかっていますが、市場に出る物件はあまり多くはありません。この両者をうまくつなげることで、地域の空き家が減り、世帯の状況に合わせた住宅がみつきり、お互いにウィンウィンとなるのではないのでしょうか。

しかし、この仕組みの実現にはまだまだたくさんの課題が関わっていることがわかってきました。まず、誰もが住みなれた愛着のある我が家を手放したくはありません。また、もし貸したい・売りたい希望があっても、そのためには家財道具を整理・処分する必要があり、これも大仕事です。貸すとなれば、その後ずっとメンテナンスを行わなければならない、単純に家賃収入だけが入るわけではありません。このような希望を誰に相談したらいいかわからないという声もありました。

次に、中古住宅や賃貸住宅の情報にも課題があると考えられます。もちろん、値段や広さ・間取り、交通利便性も重要ですが、その地域がどんな地域なのかも大切な情報ではないでしょうか。元々の所有者が次の居住者に対して、お家自慢・地域自慢をする仕組みができれば面白いとも考えています。

他にも住宅性能を表示することや、前もってその地域のイベントに参加して顔を合わせてみることも考えられますが、まずはどうしたら元の所有者が賃貸や売却へ関心を持ってくれるかがポイントになりそうです。

空家対策は、その住宅の所有者だけの問題ではなく、地域の防犯やコミュニティにも関わります。これからは住宅を社会の財産ととらえ、みなが豊かに暮らすための住宅流通の仕組みづくりに取り組むとともに、住み替え促進や住まいの管理手法の研究にもつなげることを目指していきます。

(居住科学G 馬場)

=====  
研究紹介 「低炭素な住まい・まちづくりのためのCO2排出量  
削減施策に関する研究」  
=====

地球温暖化防止のため二酸化炭素排出量の少ない低炭素な都市づくりが求められています。国においても平成22年に「低炭素まちづくりガイドライン」を定め、自治体による低炭素まちづくりを支援しています。北海道は積雪寒冷で、人口に対して都市域が広いことなどから、北海道独自の低炭素まちづくりを進める必要があります。道においても、北海道開発局と協力し、北海道版低炭素まちづくりガイドラインを平成24年度に策定し、道内の都市計画のある

市町に普及を図る予定です。

本研究は、北海道の地域性を考慮した二酸化炭素排出量の計算方法と、実現性の高い低炭素化施策を明らかにすることを目的としています。

研究内容としては（１）交通・住宅等建物・産業等から排出される二酸化炭素原単位を求め、都市計画基礎調査・パーソントリップ調査等を使って現状での二酸化炭素排出量を各市町で計算できるようにし、（２）低炭素施策を実施しなかった場合の二酸化炭素排出量の将来予測方法を確立します。（３）また、住宅の高断熱化、今後の交通のあり方など低炭素施策について、その効果と施策に要する費用を明らかにします。

今年度は、複数の市をモデルとして、交通・住宅等建物・産業等から排出される二酸化炭素原単位及び現状の二酸化炭素排出量の計算方法を検討しています。

これらの研究成果は平成２４年度に策定される北海道版低炭素まちづくりガイドラインに反映され、道内の都市計画ある市町が低炭素まちづくりを進める際に活用できます。

（居住科学G 福井）

＝＝＝  
最近の研究所の動き  
＝＝＝

■前田国土交通大臣が来庁されました

平成２３年１１月２５日（土）、前田国土交通大臣が北総研庁舎の視察のため来庁されました。

視察の様子はホームページ掲載していますのでこちらをご覧ください。

<http://www.nrb.hro.or.jp/111126daijin.html>

（企画課 伊藤）

■【「建築住宅行政における地域課題検討会議」を開催しました】

平成２３年１１月８日（火）～９日（水）北総研において、各振興局建設指導課と北総研の連絡会議を開催しました。

この会議では、地域における住宅や建築・まちづくりについての課題を共有し、解決にむけた方策を議論しました。











的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

---

発行：(地独) 北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所